

科目名		授業形態	担当教員名	
病理学Ⅰ		講義	松崎 敏幸	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 1 単位）		15 回	3 年次	前期
授業の目的・概要				
疾病をその成り立ち方（本質）から幾つかのカテゴリーに分類し、人間の生理機能との関連において病気の本質を学ぶとともに、疾病相互の関係について理解する。				
授業の到達目標				
各臓器の生理学的、解剖学的特質との関連から疾病を述べる。総論で学んだことを“縦糸”、各論を“横糸”として総合的に疾病を列挙する。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス、病理学の歴史、細胞について			
2	（総論）病因と再生医療、退行性病変			
3	（総論）修復と再生、進行性病変			
4	（総論）循環障害、炎症			
5	（総論）炎症（急性、慢性、特異性）			
6	（総論）感染症について			
7	（総論）免疫及び腫瘍マーカー			
8	（総論）先天性異常			
9	（総論）腫瘍（病期、分類含む）			
10	（総論）代謝障害			
11	（総論）老化			
12	（各論）循環器			
13	（各論）呼吸器/中間試験			
14	（各論）上部消化器（口腔～胃）			
15	（各論）下部消化器（腸～肝、腹膜）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	試験の評価		
レポート・課題				
小テスト				
平常点				
その他				
自由記載				
教科書				
書名		著者・編集者名	出版社名	
シンプル病理学 改訂第8版		笹野公伸他	南江堂	
自由記載				
参考文献				
書名		著者・編集者名	出版社名	
わかりやすい病理学 改訂第7版		岩田隆他	南江堂	
カラーで学べる病理学 改訂第5版		渡辺照男	ヌーヴェルヒロカワ	
自由記載				
備考				
将来、医療現場に於いて、CPC(病理・臨床カンファレンス)などで病因、予防、治療、及び予後など医療の重要な役割に対処出来る為にも、病理学的基礎知識を習得し、医学の進歩に貢献できる医療人になれる様、講義の目的としたい。				